

読書活動の推進について



公明党
原田 剛 議員



質問 市民の読書離れに危機感を覚える。市民総ぐるみの読書活動の推進について所見を伺う。

教育長 平成26年に福生市立図書館基本計画を策定、生涯にわたる自主的な学習を支える図書館を目指し様々な事業を推進してきた。人口1人当たりの蔵書数は人口6万人未満

の都市で全国2位と極めて高い。乳幼児から高齢者までの各世代や外国籍の方、障害者や来館が困難な方など様々な市民へのサービスを充実。各館の特色や機能分担を明確化し、様々な世代の市民の豊かな読書活動を支える図書館運営を目指している。

質問 読書推進を考える上で、電

子図書の導入も感染症防止や貸出しの利便性から有効ではないか。

教育部長 所蔵スペースの確保や感染症防止対策には有効だが、閲覧に回数や期間の制約があり、長期保存も難しい。利用者が機器を用意する必要性があり、導入と維持の経費等、実現には多くの課題がある。



▲福生市立図書館基本計画(改訂)

CV-22オスプレイの6機目の正式配備について



日本共産党
市毛 雅大 議員



質問 6機目が7月6日に横田基地に飛来したことが、7月20日に公表された。市の見解等を伺う。

市長 令和6年頃までに計10機が配備される計画は平成30年の段階で情報提供を受けていたが、今般の飛来や配備について、国から事前の情報提供はなく、大変遺憾だ。引き続

き都や周辺市町とも対策に取り組む。**コロナ禍における生涯学習や文化芸術施策等について**

質問 本市の生涯学習や文化芸術分野におけるコロナ対策の経過や取り組み、今後の展望を伺う。

教育長 各施設は緊急事態宣言等の期間中は休館や休場、開館時間短

縮や人数制限を実施。令和2年度は社会教育関係で計91の事業、講座等が中止となった。施設では飛沫防止パネル設置や消毒等を実施、利用者にも3密回避やマスク等の対策を要請した。市民からはコロナ禍でも学びや活動に取り組みたいという声が多く、適切な管理・運営に努めたい。



▲感染症対策を講じて市民会館で行われた成人式

特別障害者手当の周知について



日本共産党
池田 公三 議員



質問 本市における特別障害者手当についての周知方法を伺う。

市長 市ホームページや広報のほか、福祉サービスガイドブックに手当の内容を掲載し配布している。また、窓口で障害者手帳の申請に来られた方で受給の可能性がある方にはご説明している。

質問 本市の特別障害者手当の受給者数は。障害者手帳は、実際には発行されていなくても重度障害の診断書が提出されれば対象になる場合がある。また、ホームページでは施設入所中は支給対象外とあるが、国によるとこれは特別養護老人ホーム等のことで、有料老人ホームやサー

ビス付き高齢者住宅は在宅扱いだという。これらの記載は改善し、多くの方に制度利用の道を開くべきだ。

福祉保健部長 昨年度末の受給者は67人で全て障害者手帳所持者。手当の周知は関係課と連携し、介護保険事業者連絡協議会等も活用する。ホームページの記載も工夫したい。



▲各種手当や医療費助成等をご案内する「福祉サービスガイドブック」

バスロケーションシステムについて



正和会
小澤 芳輝 議員



質問 7月に運用開始したバスロケーションシステム、通称Bus Go!の利用状況を伺う。

市長 7月から8月末までに1575回の利用があり、利用者からは便利と好評をいただいている。また、システムを利用していない方からバスの到着時間等を問合せされた際も職

員がシステムで位置を確認しお伝えしたり、コロナワクチンの予約支援窓口では帰りのバスの到着案内にも役立った。今後も周知に努めたい。

下の川緑地せせらぎ遊歩道公園等について

質問 市道に面したのり面は5年ごとの道路ストック点検で状態を観

察しているとのことだが、公園内部ののり面はどう対応しているのか。

市長 道路に面していない部分も平成29年度から30年度に点検を行っており、5年経過後の令和4年度から5年度に再度点検を実施したい。今後も定期点検のほか、日頃のパトロールで安全対策を図っていく。



▲バスロケーションシステムBus Go!の画面

保育施設等における新型コロナウイルスワクチン接種について



立憲民主党
市川 佳樹 議員



質問 保育士の仕事は子どもを預かるだけでなく、保護者が安心して仕事に行くことで生活を支えることができるという大切な役割を補っており、コロナ禍でも保育士が安心・安全に仕事ができる環境を整える必要がある。本市では他自治体より早々に保育士等のワクチン優先接種

を行ったと聞かすが、詳細を伺う。

市長 令和3年度当初、新型コロナウイルスワクチンの接種は医療関係者等に優先接種されていたものの、リスクが高いとされる保育士等には国の方向性が示されていなかったが、4月以降市内幼稚園・保育園の団体から要望が相次いだことから、7月

6日以降、市内の幼稚園、保育園、学童クラブや児童館職員等の希望者全員への優先接種を実施した。現時点で各施設の職員等のほぼ全員が2回目の接種を終え、皆様が安心して仕事ができる環境を近隣自治体に先んじて構築できたことは市としても喜ばしく、適切に対応したと考える。



福生市交通安全推進委員会における募集の現状と取組について



正和会
幡垣 正生 議員



質問 交通安全運動の推進、交通安全思想の普及啓発を目的とする福生市交通安全推進委員は定員140名に対し現在75名だという。委員の確保に苦慮しているものと推測するが、現状と今後の取り組みを伺う。

市長 委員の中には長年にわたり委員会の活動にご尽力いただいでい

る方も多くいらっしゃるが、高齢化と後継者不足が現状の課題である。活動が平日に実施されることが多く、本業との調整が難しいため加入しても続けていくことが困難なケースもあり、後継者探しには大変なご苦労があると聞く。交通安全推進委員会は、今後も市の交通安全対策を推進

していく上でなくてはならない組織であり、市広報や安全安心まちづくりだより「あんまち!!」などで引き続き活動をPRするとともに、交通安全運動のキャンペーンや交通安全講習会、各種イベントなどでも周知を図るなど、交通安全推進委員会と連携しながら会員確保に努めたい。



▲福生市交通安全推進委員会の活動の様子